

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	文化祭開催事業		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	文化の薫り高いまちづくり		係	文化会館係	
	施策分野	文化の振興	(5) 主担当者区分	係長		
	施策	文化活動の活性化	(6) 関連する課			
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町文化祭実行員会設置要綱					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町民	実施期間	R2. 4 ~ R3. 3
	事業内容	町民が自主的に創造的な芸術文化活動を展開できるよう、文化会館と公民館を拠点に町民のニーズに即したイベントを行う。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	5 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	3,145	8,408	0	0	0
		財源内訳	事業費等	千円	1,369	1,304	0	0	0
			国支出金	千円					
			県支出金	千円	500	500	0	0	
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円	869	804	0	0		
	人件費	千円×人役	1,790	7,104	0	0	0		
正規職員	千円×人役	5,968 × 0.30	5,920 × 1.20	6,053 ×	6,053 ×	6,053 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	実行委員会及び運営委員会を組織し芸能発表会、音楽会、展示発表会等を開催する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		実行委員会	回	2	2	100.0	2	0	0.0
		運営委員会	回	3	3	100.0	3	0	0.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	文化祭参加者数・来場者数			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
		文化祭参加者	人	1,700	1,051	61.8	1,700	0	0.0
		文化祭来場者	人	4,700	3,616	76.9	4,700	0	0.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	文化祭は、文化の振興を目的としており、総合計画の目標達成に結び付く事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	町民のニーズは高いが高齢化により、参加者が減少に転じている。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	参加者間で協力して運営しているので、実施済みである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	類似事業は特になく、概ね効率的にできている。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	町内在住・在勤者であれば誰でも参加できるので、極めて公平性が高い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	参加料は無料であるが、文化の振興を目的としているので、概ね適正な負担割合である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	高齢化や新規サークルの育成、来場者の増加について検討していく必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	今後も、文化振興の中心となる文化祭を開催する必要がある。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	今後も、文化振興の中心となる文化祭を開催する必要がある。高齢化や新規サークルの育成、来場者の増加について検討していく必要がある。コロナ禍のサークル団体・個人への支援が必要である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 高齢化や新規サークルの育成、来場者の増加について検討していきたい。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	文化協会事務事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	文化の薫り高いまちづくり		係	文化会館係
	施策分野	文化の振興	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	文化活動の活性化	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町文化協会会則				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町民	実施期間	R2. 4 ~ R3. 3
	事業内容	町民の芸術文化活動への参加促進のため、町文化協会と連携した各種初心者対象講座の実施の支援を行います。また、文化振興のための普及啓発等PR活動の検討、近隣市町との文化交流の促進を図ります。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	5 目	
	事業費	財源内訳	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
			コスト総額	千円	977	932	8,249	7,644	0
			事業費等	千円	380	340	380	380	0
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
			一般財源	千円	380	340	380	380	
			人件費	千円×人役	597	592	7,869	7,264	0
正規職員			千円×人役	5,968 × 0.10	5,920 × 0.10	6,053 × 1.30	6,053 × 1.20	6,053 ×	
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・初心者対象講座・文化のつどい			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				初心者対象講座	講座	4	3	75.0	4	0	0.0
				文化のつどい	回	1	1	100.0	1	0	0.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	・文化協会会員延人数			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				文化協会会員延人数	人	840	585	69.6	840	579	68.9

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	事務局として町文化協会を支援しており、総合計画の目標達成に結び付く事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	高齢化と加入のメリットが少ないため退会する団体が出ている。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 A. 実施済み・できない	理由	各サークルとも町民の方々により運営されており、実施済みである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	類似事業は特になく、概ね効率的にできている。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	役員や理事は、文化協会を運営していく上で苦勞しているが、概ね保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	補助金だけでなく、会費を徴収し運営しているが、概ね適正な負担割合である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	高齢化、文化活動の多様化に伴う会員の減少などの問題解決に向けた取り組みが必要である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	今後も文化協会が町の文化振興の向上を図る団体として活動できるようサポートする必要がある。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	今後も文化協会が町の文化振興の向上を図る団体として活動できるよう支援する必要がある。また、高齢化、文化活動の多様化に伴う会員の減少などの問題解決に向けた取り組みが必要である。また、コロナ禍で活動が制限される状況により、解散するサークルが多く今後は新規団体への立上げ支援が必要である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 高齢化、文化活動の多様化及びコロナ禍での活動制限に伴う会員の減少などの問題解決に向けた取り組みが必要である。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ						
(1) 事務事業名	文化会館施設管理事業			(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画		(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち			課	生涯学習課
	分野別目標	文化の薫り高いまちづくり			係	文化会館係
	施策分野	文化の振興		(5) 主担当者区分	係長	
	施策	文化施設の整備		(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町文化会館設置及び管理運営条例、同施行規則					

2. 事業内容・投入コスト			
(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町民・地域住民	実施期間 R2. 4 ~ R3. 3
	事業内容	地域住民や文化団体等が日常、身近なところで多様な文化活動ができるようにするため、文化活動の拠点にふさわしい、文化の薫る文化会館の環境整備に努める。また、町民のニーズに応えるために、あらゆる施設を有効に活用するための方策について検討する。	
	前年度から改善した点	特になし	

(2) 投入コスト	会計		010 一般会計		予算科目	9 款	4 項	5 目	
	区分		単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
	事業費	コスト総額		千円	96,909	14,663	62,510	63,731	0
事業費等		千円	96,909	54,085	51,145	52,836	0		
財源内訳		国支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	96,909	3,298	2,878	2,878		
人件費		千円×人役	0	10,656	11,365	10,895	0		
		正規職員	千円×人役	5,968 ×	5,920 × 1.80	6,053 × 1.80	6,053 × 1.80	6,053 ×	
		正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	357 ×	470 × 1.00	470 ×	470 ×	
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標										
(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段		指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
					目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	・貸館受付調整事務 ・使用打合せ及び相談		毎月貸館受付	回	12	12	100.0	12	12	100.0
		相談・打合せ・相談	回	108	119	110.2	108	79	73.1	
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果		指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
					目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	・文化会館の有効利用 ・文化会館施設稼働率		文化会館平均稼働率	%	40	31	77.5	40	22	55.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	随時相談業務や施設修繕を実施しており、総合計画の目標達成に結び付く事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	多様化する町民のニーズは多いため、既存の概念から柔軟な発想への転換が必要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	R元年から町直営になり、町の施策が直接反映出来たため現在は有効であるが、今後の状況により検討が必要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	類似事業は特になく、概ね効率的にできている。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	条例等の規定に基づき貸館業務を実施しており、月の初めに受付調整を行うなど、極めて公平性が高い。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	条例等の規定に基づき使用料を徴収しているが、概ね適正な負担割合である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	公共施設の電子申請の導入や、時代に即した設備の拡充等を図る必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	文化会館の有効活用を図るため必要である。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	多様化する文化活動の支援をするとともに、使いやすい文化会館を目指し、受付事務の合理化を図る。 また、今後も施設設備の老朽化に伴う修繕が必要である。緊急性・経済性を考慮して計画的に対応していく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 文化会館の有効活用を図るため、見学や相談事業を実施して行く。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価		町長	評価

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	文化会館自主事業		(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	文化の薫り高いまちづくり		係	文化会館係
	施策分野	文化の振興	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	地域文化の振興	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町文化会館運営審議会設置要綱				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町民・地域住民	実施期間	R2. 4 ~ R3. 3
	事業内容	野木町文化会館基本理念の実現のため、各種事業を企画し実施して参ります。また、町民が優れた文化芸術に触れる機会を提供し、クラシック音楽や笑いの文化を積極的に取り入れ、鑑賞や体験を通して野木町の文化向上を図る。		
	前年度から改善した点	新規事業としてマンガ教室の開催を実施した。		

(2) 投入コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	5 目	
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)	
			コスト総額	千円	0	23,315	17,958	17,062	0
		財源内訳	事業費等	千円	0	12,555	7,198	6,302	0
			国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円		5,328	1,785	350	
		一般財源	千円		7,227	5,413	5,952		
	人件費	千円×人役	0	10,760	10,760	10,760	0		
正規職員	千円×人役	5,968 ×	6,053 × 1.70	6,053 × 1.70	6,053 × 1.70	6,053 ×			
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	470 × 1.00	470 × 1.00	470 × 1.00	470 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・自主事業の企画・実施 ・共催事業・講座の開催			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				自主事業	本	9	7	77.8	9
共催事業・講座	本	3	2	66.7	3	2	66.7		
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度		
	・自主事業の参加、入場者数			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				参加、入場者数	人	2,500	2,241	89.6	2,500

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	自主事業は、優れた文化芸術に触れる機会を提供する事を目的としており、総合計画の目標達成に結び付く事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	近年、文化活動は多岐にわたり、日本の伝統文化はもちろん、国際的な文化活動を取り入れる団体、個人が多いため、多様化する町民のニーズを把握する必要がある。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	令和元年より直営化したことにより、新たな事業展開が出来るようになった。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	類似事業は特になく、概ね効率的にできている。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	タレント公演は委託業者を選定する際に苦労するが、概ね保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	入場料、参加料を徴収しているが、町が主催の為低額に抑えられているため概ね適正な負担割合である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	費用対効果を考慮しつつ、若者世代へのアプローチに改善の余地がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	今後も、町の文化向上の中心事業のため開催する必要がある。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	開館以来、継続してきた事業であり、近隣と比べても文化向上を図れていると考える。今後も優れた文化芸術に触れる機会を提供し、より多くの方に来館して頂けるような企画を計画し、実施していく。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	財政状況が厳しくなるなか、情報収集を積極的に行い、低予算で優れた文化芸術を提供出来るよう計画していく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			文化会館の目指すべき姿である、町民に利用しやすく、親しまれるような「文化の殿堂」を実現するために、今後も継続すべき。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	